

「割合」

1 提案の主張点

(1) ねらいについて

百分率の意味について理解し、それを用いて資料を分類整理したり、数量関係の理解を深めたりすることを単元のねらいとして学習計画を立てた。学習過程を考える際子どものつまづきを①一方を1として他方を表記すること。②小数倍になるため、文章からイメージがつかみにくいことと考えた。

解決の手だてとして、良さをより味わわせたり、関係図や線分図を用いてより具体的にイメージかを図れるようにした。そうしたことを通して、線分図を理解できるようにしながら、割合の理解もできるように学習を組み立てた。

(2) 研究の内容について

線分図を理解できるようにしながら、割合の理解もできるようにするためコース別に単元の進め方を変えた。各コース分けの際には、プレテストを行い、子ども自身が判断するようにした。

コナンコースでは、何倍の考え方を基に、基にする量や比べる量を導き出す問題を取り入れ、数量関係の理解を十分に深め、その後、小数倍を整数に表現する百分率を取り入れられるようにした。2つの数量関係をしっかりと考えさせる時間を多くとることで、思考力がさらに伸びると考えた。

ドラえもんコースでは、視覚的に分かりやすい数直線テープ図を用いて思考を整理しながら学習を進め、徐々に線分図に移行させ数量関係を把握しやすいようにした。

(3) 実践を通して

実践を通すことで、割合の学習に対して抵抗感がなくなった。子どもからは、「割合が分かってよかった。」「線分図がけけるようになった。」というような声も聞かれた。本実践を行った後、それまでは授業中発言が少なかった子どもも、意欲的な発表をするようになった。

また、線分図等を使って説明を分かりやすく整理して行えるようになった子どもが増えた。

割合の学習によく似た学習でコース分けを行うと、自信を持ってコナンコースに行く子どもが出てきた。

2 提案に対する意見（質問○ 回答◎）

- 線分図にこだわらず、数直線のみを使っでの学習を進めても良かったのではないか。
- ◎ 前単元の線分図との違いはあるが、いろいろな機会を捉えて線分図にふれておくことが大切。経験をさせておくことが今後の学習に生かせるのではないか。
- 図の量感をいい加減にかく子どもへの指導はどのように行ったのか。
- ◎ 図を量として捕らえていない子どもが多いと考え、目盛りをつけた図を用いたり、色を塗るといった活動を取り入れた。

3 御指導

割合につながるような内容を指導する際に、割合の学習を見通した指導をしておくことが重要。

- ① 指導計画の見直し。いろいろなアプローチの仕方を検討して考える。
- ② 視覚に捉えやすくする工夫。規準量などを基にした関係図を利用する方法がある。指導の工夫をしていくことが割合を分かりやすくする
- ③ 生活にある割合を学習の中に取り入れる。
本提案では、線分図を基に数量関係を視覚的に捉えながら学習をしていたことがよかった。しかしながら、線分図ばかりに固執すると、量感を捉えることが難しくなる子どももでてくる。線分図を活用していくのは大切だが、それぞれの子どもの様々な考え方を認めた上で交流の段階で出し合うことがいいのではないか。

子ども実態を捉えてその実態から単元を作り直したところが良かった。

本単元のように、実際に二つの数量の関係を用いて表すことというのは難しい。その解決として、視覚化できる図が必要になる。またそのためには、評価をきちんと積み重ねていることが重要となる。本提案では、12人の評価をしっかりと把握していた。

いろいろな手法で解決に結びつけることで、自力解決が行いやすくなる。